

## 平成19年度第3回中原区区民会議

平成19年度第3回中原区区民会議が開催されました。

会議のテーマは前回に引き続き「地域で取り組む環境対策」。地域で活動する方からの報告と、各委員の取り組みについてそれぞれが発表した後、地域や家庭で取り組む環境対策について議論しました。

会議の内容は次のとおりです。

### 日時・会場など

平成20年1月18日（金）午後2時32分から午後4時51分まで

中原区役所5階会議室

会議の傍聴人 5名

### 会議次第

- ・開会
- ・会議録確認委員の選任
- ・議題「地域で取り組む環境対策2」～わたしたちにできる“環境”を考える～  
ゲストスピーカー：中山育美氏（川崎市中原区在住）
- ・その他 報告書作成のためのレポートの提出について
- ・閉会

### 議題検討における活動事例報告と主な委員意見

#### 〈中山育美氏から報告〉

- ・グリーンコンシューマーという概念は、環境に配慮した買い物をする人という意味合いである。買い物はマイバッグに入れてレジ袋はもらわない、物の一生を考えて旬のものを買う、トレーに入っているものよりばら売りのものを買う、できるだけ近くのできれば川崎で生産された食べ物を買う、産地の人にも適正な報酬を支払って健全に収穫をしたフェアトレードのものを選ぶなど10原則を頭に入れて買い物をする。
- ・かわさき地球温暖化防止対策推進協議会の市民部会の中に、地球温暖化を防止するために自分たちのライフスタイルを見直そうということでグリーンコンシューマーグループができています。川崎市をエコショッピングタウンにしようというキャッチフレーズを掲げて取り組んでいる。
- ・環境に配慮した消費者を増やす一方で、環境にいい商品を売る店も増えないとグリーンコンシューマーは育っていかないので、店と消費者が協働して増えていくように活動をしたい。

- ・ブレイメン通り商店街で取り組んでいる「一店一エコ運動」は、川崎市の頑張りモデル商店街事業の中で、1つの店が何か1つ環境にいいことをやろうということでグリーンコンシューマーグループと一緒に取り組んでいる活動である。
- ・「一店一エコ運動」を継続する仕組みとしてエコ調査隊があり、地域の小学校の子どもたちが年に1回店を訪問して、きちんと取り組まれているかをチェックする。継続して動かしていく仕組みをつくることが大事である。
- ・子どもたちと一緒に商店街で環境に配慮した買い物をして、それを使って環境に配慮したクッキングをするエコショッピング・クッキングも行っている。
- ・環境フェア等でアピールするだけでは活動の場や仲間が増えないので、環境に配慮していないテーマで出展している方々もたくさん集まるインターナショナルフェスティバル等、ほかの場所にも出ていくことが、環境への取り組み活動や仲間を広げる上で大事なことである。
- ・環境と経済の両輪が2つそろって地域にいいものになるということを象徴したキャラクターとして、「エコろじい」ちゃんと「エコのみい」ちゃんの2人合わせて「エコちゃんず」というキャラクターをつくって活動をしている。
- ・工場で1年間に化学物質をどれだけ放出したかをみずから報告するP R T R制度がある。企業が出している環境報告書に関心を持って企業に問い合わせることで、企業も努力し、排出量も減っていくのではないかな。
- ・環境に関心の高い人にはリーダーとして行動してもらい、とりあえず仕組みがあるのでやっているという人には、その意義をほめてあげることでやる気を起こさせる。関心はあるけれども行動になかなか移せない人には、「楽しい」とか「得する」という情報や仕組みがあるといい。無関心な人には、アル・ゴアさんがつくった「不都合な真実」という映画を見るなどのショック療法で関心が持てるようになるのではないかな。
- ・行動に移して継続するためのポイントは、なぜそれが必要なのか、重要なのかということが納得できる情報があるといい。ペットボトルを分別した後リサイクルしている工場を見学に行くとか、体で体験できることが継続していくことにつながる。
- ・環境というのは一つの切り口であり、小さなことでもできることから継続していくことが大事である。それを企業、行政、ほかの市民グループや隣の人と連携していけることが大事なことであり、課題である。

#### 〈委員からの主な意見・提案〉

- ・菓袋を捨てないで、次の診察のときに持ってきてもらうことによって紙の無駄を省くことを考えている。
- ・コンポストが1つだと堆肥が成熟するまでに時間がかかるので2つに増設し、6カ

月ごとに堆肥が利用できるようにした。川崎市はコンポストを購入すると費用を半額補助してくれる制度があるが、そのことを知らない店もある。またコンポストを扱っているところも非常に少ない。行政からももう少しPRしてもらいたい。

- ・ 門灯や常夜灯など長時間点灯する白熱球を蛍光灯にすることで電気代を節約している。
- ・ ガス、水道、電気は小まめに消す。
- ・ マイバッグ、マイボトル、マイ箸を出かけるときに持参している。
- ・ 出かけるときには、コンセントを必ず抜いていく。
- ・ 出かけるときは徒歩や自転車で、車は使わないようにした。
- ・ 中原中学校地域教育会議の子ども会議の中で、エコについて子どもたちに話をしてもらった。上丸子小学校では省エネ隊というプロジェクトを組んで、学校の中で活動に取り組んでいる。一番関心があるのは電気の節約で、次に水の節約、ごみを減らす、リサイクルでフリーマーケットを利用する、資源ごみは資源回収をする、ペットボトル・牛乳パックの再利用、紙は無駄に使わず両面を使う、エアコンの温度の設定、自然を大切に作る、エコバッグ、車、マイ箸など、子どもたちもエコには大変関心がある。
- ・ とどろき水辺の楽校では、中原区市民提案型事業を活用して3月9日に多摩川クリーンアップ大作戦を実施する。
- ・ とどろき土手の桜を愛する会では昨年、桜並木を延長し、毎月、草刈りとごみ拾いを行っている。桜並木はあと10年もしたら川崎市内でも有数の名所になるのではないか。
- ・ 自宅近くの商店街で、必要な物を必要な時に必要なだけ買っているので、エコに貢献していると思う。お店の人といろいろな話もできるので、一石二鳥。
- ・ 毎月会議があるが、そこで必ず環境問題が話題として上る。その内容が非常に豊富になり、環境問題に対して皆さんが毎日の生活の中で意識し出していることを実感している。
- ・ 印刷物は両面を利用する。
- ・ 古切手を小まめに送っている。
- ・ 生ごみや落ち葉から堆肥を作って、学童保育の子どもたちとダイコン作りをした。
- ・ 学童保育教室では塗り箸、おわんなど、器で数がそろっているものは毎回使う。
- ・ 不要になったピアノ、リコーダー、サッカーボールを集めて、エチオピアやカンボジアへ送った。使える中古のスポーツ用品や楽器があったら委託してもらえれば、発展途上国に持って行って使わせていただく。
- ・ 学童保育でペットボトルキャップの収集も始めた。
- ・ この区民会議で出た活動から、だれが何が得意かを取りまとめて、この件はこの人

に依頼すればうまく処理してもらえるとというエコネットワークをつくりたい。

- ・学童保育で身の回りの不要な物をリユースしたい。
- ・マイ箸を進めたいと思っているが、パーティなど大勢の人の前で出すのはまだ恥ずかしい。
- ・日本が幾ら豊かになったといっても、今の地球環境を考えたときに、テレビで毎晩のように大食いの番組を放映し、まるであれがいいことかのようにご飯を無駄にするのはおかしい。大食いの番組はやめてほしいと中原区区民会議からテレビ局に提言したい。
- ・電気を小まめに消して節水もするといった、エコロジーよりもエコノミーを先に行っている。
- ・外壁は断熱材を利用し、ガラスは二重ガラスにしてヒートロスのない家に建て替えた。
- ・外壁にグリーンウォールをつくることで夏場は冷房効果が期待でき、目にも優しい。
- ・施設からワイシャツがあつたら寄附してもらえないかという要請があつた。着られなくなったものを洗濯してとっておいたので非常に喜ばれた。
- ・今年の冬は床暖房だけで、他の暖房は一回もつけていない。
- ・厚い靴下を履くなどして暖房はなるべくつけない。
- ・子育てサロンで子どもたちの洋服の着回しを進めたい。
- ・子育てサロンでお母さん方にエコについて聞いたところ、牛乳パックやトレーを回収するところへ持っていく、マイバッグを持っていく、外出するときは紙おむつだが家にいるときは布おむつにする、洗濯をするときに粉石けんを使う、掃除は合成洗剤ではなく重層を使う、余り物を買わないようにしたい、物を長く使いたい、大人の服を子ども用にリフォームする、和服を洋服にリフォームする、家族で早く寝る習慣をつけて夜はなるべく早くに電気を消す等の意見があり、関心が高かつた。
- ・自宅をオール電化のエコライフ住宅に建て替えたので、うまく家を使えるようにしていきたい。
- ・区民会議に出て環境のことについて得た知識を知人にも広げたい。
- ・充電式電池を使う。
- ・ビンのリユースシステムモデル事業のPRの一環として、2月8日、9日に新城駅前を試飲会を行う。
- ・九州等へ行くときはほとんどの人が飛行機を使うが、私は電車を使っている。せっかく細かいことで苦勞しても、そういうところで炭酸ガス、排気ガスをたくさん出したらもったいない。
- ・物事にはバランスが必要である。暖房を使わないといい部分もあるが、それで風邪

を引いてしまっただけでは余り意味がない。飛行機に乗らないのはいい部分もあるが、時間がかかってしまう。

- ・牛乳パックを1個1個各家庭で洗って出すのは、そのために使う水のことを考えると本当にエコロジーにつながるのか疑問である。個人の意識が高まるという効果はあるが、まとめて工場で洗うのに比べて逆効果ではないか。
- ・再生（リサイクル）の前に再利用（リユース）が大事である。紙も裏を家で使った後、リサイクルに出している。
- ・正しい知識を得てからのエコロジーが非常に大事だと思う。
- ・古い服を欲しい人につなげるネットワークが日本であればよい。
- ・小杉2丁目でペットボトルのキャップの回収は、これからも継続していきたい。区役所や学校などにも回収箱を置いている。
- ・中原区町内会連絡協議会で、エフピコ関東リサイクル工場での食品トレーの回収・再生、いわきニュータウンの太陽光発電集中連系システム、サンペーパーの古紙リサイクル工場の視察研修、上高地を美しくする会との意見交換等を行った。次回はレジ袋の削減、エコドライブの講習会に町会を挙げて取り組みたい。
- ・レジ袋はそんなに悪いものか。レジ袋をもらうかわりに、ごみ袋を買わないという使い方もできるので、本当にストップするべきかは疑問に思う。
- ・かわさき地球温暖化対策推進協議会にエネルギーのことをやっているソーラーチームがあり、国際交流センターに発電所をつけようと今、市民からも募金を募って活動している。

#### 〈区役所から報告〉

- ・ブレイメン通り商店街の「一店一エコ運動」に習い「中原区役所一課一エコ運動」に取り組んでいる。各課でどんなエコ活動ができるかを考え、取り組み内容を市民に対しても宣言できるように窓口にポスターを掲げて、なるべくエレベーターの使用を控える、エコに配慮してイベントを行う、緑のカーテンの取り組みを広めるなど職員全員で身近なところから取り組んでいる。
- ・取り組み内容の一覧は、1階のロビーにも掲示している。
- ・来年度はさらに緑のカーテンを地域に広めたい。育てていただける団体、地域の方を市政だよりで募集し、プランター、土、肥料、種を貸与し、今回区役所で育てた経験をまとめたリーフレットをつくって一緒に渡したい。
- ・小杉2丁目町内会のペットボトルキャップの収集に、区役所の5カ所に回収箱を置いて協力している。
- ・区役所1階ロビーに小学校の環境学習の成果品を展示して、エコギャラリーのようにして、区民に啓発を図る予定。

- ・区民会議発の取り組みを広く市民にPRするため、地球の「エコちゃん」としるくまの「ロージーちゃん」のキャラクターマークを考えた。各団体の活動のチラシやパンフレットをつくる際に一緒に使っていただければと考えている。

#### 〈委員からの主な意見・提案〉

- ・委員は区民会議の場だけで熱弁を振るうのではなく、団体や地域に戻ってからも本日の話を広めてもらいたい。
- ・委員の取り組み活動一覧をつくっていただけることは大変励みになるし、他の委員の活動も自分たちの活動の参考になる。ぜひ資料作成の継続をお願いしたい。
- ・区民会議の委員が取り組んでいる活動を「中原区区民会議地球にいいことプロジェクト」というキャッチフレーズで広く市民に発信していったらどうか。(事務局)  
→賛成
- ・ブレイメン通り商店街の「一店一エコ運動」、区役所の「一課一エコ運動」に習い、家庭や事業所で「一家一エコ運動」「一部一エコ運動」等、商店街、行政、家庭、会社へこの活動が広がっていけばよい。
- ・区役所にはたくさんの市民が来るので、「あなたのエコ活動は何ですか」ということを書いてもらって写真に撮り、1階のロビーの壁に張り出せば、この人がこんなことをやっているということもわかり、活動も広がっていくのではないか。
- ・ごみになるペットボトルのキャップをリサイクルすることはいいことであるが、ペットボトルのキャップを集めることがペットボトルをたくさん使うことを奨励するようなことにならないければよい。マイボトルやマイカップを持っていくことのほうが環境に配慮した、よりよい行動ではないか。(中山氏)
- ・この環境の議論と取り組みは、2期区民会議に継続する。